三人制審判

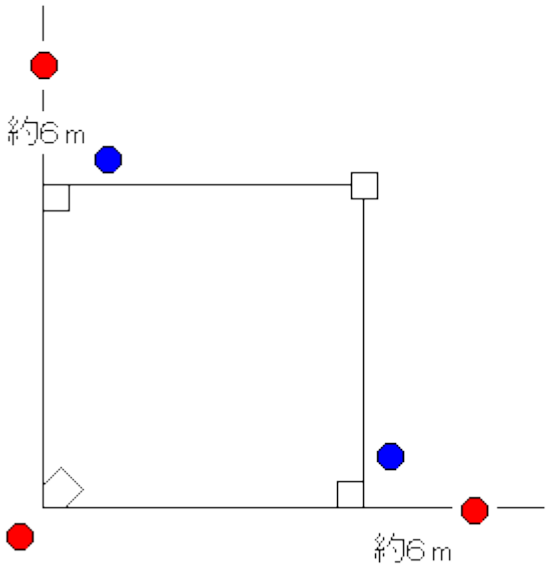
塁審の任務

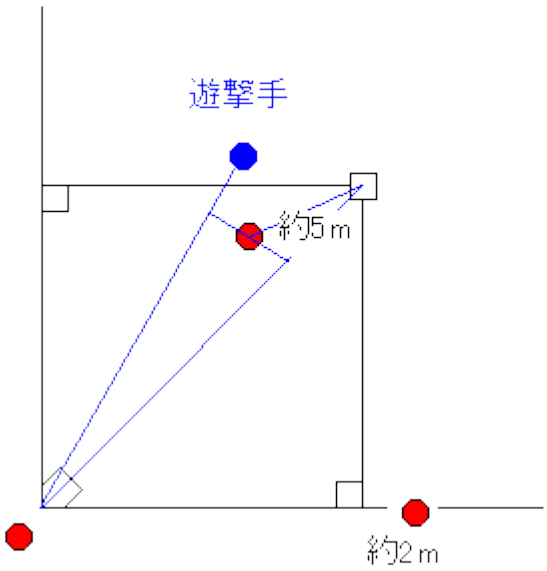
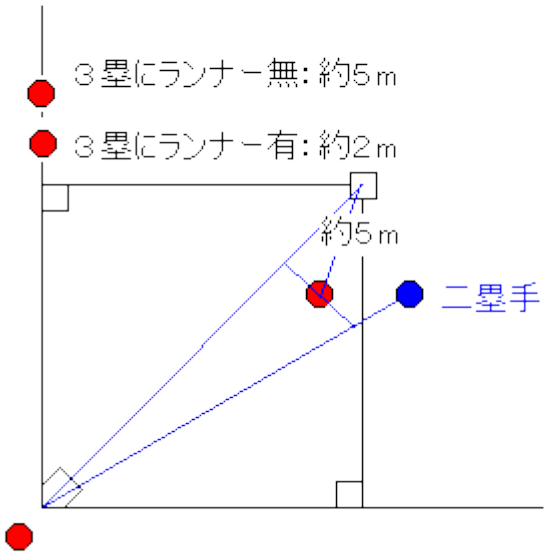
1. 球審が行う特別の場合を除いて、それぞれの分担する塁におけるプレイのジャッジ。
2. タイム・ボーク・反則投球等については球審と同じ権限を持ってジャッジする。
3. 試合の運営についてあらゆる面で球審を補助・援助する。

審判ジャッジの取り決め注意事項

1. ファールライン付近を転がる打球のジャッジは次のとおりである。1・3塁ベースまでは球審。1・3塁ベースを含む以遠は塁審。ただしベースに触れたときは球審。(ダブルコールに注意する)
2. 内野フライ・内野ライナー・インフィールドフライ・故意落球は球審がジャッジする。
3. 外野フライ・ファールボールは捕球した野手に近い審判員がジャッジする。
4. 常にボールから目を離さない。(ウオッチ ザ ボール)
5. 一つのプレーの判定は必ず担当審判一人が行います。一つのプレーに二人の審判が判定を下すダブルコールは厳禁です。
6. プレーに対し最も適切な角度と距離をとるようにし、必ず静止して判定を下します。厳しいときは距離より角度を重視します。 1判定はあわてず、しっかり確認し、宣告します。
7. 内野フライ、インフィールドフライ、故意落球は原則として球審が宣告します。
8. タイムは各審判が同調する。アウト、セーフ、フェア、ファウルは同調しない。インフィールドフライは同調してもしなくてもよい。
9. フェアの宣告はノーボイス ゼスチャーのみ。(声を出さない)
10. プレー中は腕組みやポケットに手を入れての塁審はしないこと。(手が冷たい時は手袋 **OK** です)

審判の位置

ケース	略　　図	要　　点
ランナーがいない場合の審判員の位置		1塁塁審・3塁塁審共通 • ベース後方約6mのラインの外側に立ちます。 • 内野手が極端に後ろに下がって守備をする場合は野手の 1.5～2ｍ後方のラインの外側に立ちます。 • 内野手より前(本塁側)に出てはいけません。 ※図はライン上に塁審が配置されていますが、ラインをまたいで立ってはいけません。

ランナーが1塁の場合の審判員の位置		1塁塁審 • ベースに近づき(約2ｍ)、投手の方向へやや半身になりラインの外側に立つ。 ※図はライン上に塁審が配置されていますが、ラインをまたいで立ってはいけません。 3塁塁審 • 本塁と2塁ベース及び本塁と遊撃手の位置を結ぶ線との中間で、2塁ベースから約5ｍのところに位置する。 • 体は本塁に正対する。 • 投手が投球動作に入ったら、姿勢を低く構え、打者や野手の妨げにならないように注意します。
ランナーが2塁の場合の審判員の位置(1・2塁、1・3塁、満塁も同じ)		1塁塁審 • 本塁と2塁ベース及び本塁と二塁手の位置を結ぶ線との中間で、2塁ベースから約5ｍのところに位置する。 • 体は本塁に正対する。 • 投手が投球動作に入ったら、姿勢を低く構え、打者や野手の妨げにならないように注意します。 3塁塁審 • ベースに近づき(3塁にランナーがいない時は約5m、3塁にランナーがいる時は約2ｍ)、投手の方向へやや半身になりラインの外側に立つ。 ※図はライン上に塁審が配置されていますが、ラインをまたいで立ってはいけません。

※まずは一般的な心構えから。難しいことは特にありません。基本の動きやルールは徐々に覚えれば良いでしょう。最初から完璧な人などいないことですから。試合で平田さん教えていただいたり、上手い塁審を見て学びましょう。

大変だとは思いますが、ご理解ご協力よろしくお願いします。